

丹波中学校だより 清流の辺

せい りゅう ほとり

平成28年11月22日(火)
No. 32

文責 丹波中学校長 梶原勝由

授業参観 課題解決学習発表会 ～子ども議会に向けて実りあるものに

11月19日(土)、授業参観及び学習発表会を開催しました。授業参観では、村会議員の方々にも熱心に見ていただき、とても刺激になりました。そのあとの課題解決学習発表会でも、丹波山村議会議員の皆様、教育委員会の方々など、大勢の地域の皆さんにお集まりいただき、ありがとうございました。今年度は、12月に行われる「子ども議会」に照準を併せて、「丹波山 過去、現在、そして未来へ」のテーマの下、10名の生徒が自ら課題を設定し問題を解決してきたものを発表しました。如何でしたでしょうか？多くの方から質問や意見など交流の場としてもとても有効なものになりました。

守岡 響希「丹波山村の川」
守屋 瑠唯「丹波山村の地形を探る」
高木 倫「丹波山村の山菜 第2弾」
長谷川 洋美「丹波山村の人口の変化」
嶋崎 龍弥「丹波山村の空き家再生」

近藤 友香「丹波山村の火災」
芦澤 優希「丹波山村の商業施設」
岡部 晃也「丹波山の観光資源」
廣瀬 賢「丹波山の情報発信」
舩木 俊成「IT企業を田舎に誘致」



へき地教育振興大会

11月18日(金)、早川町民体育館で山梨県へき地教育振興大会・研究会が行われ、PTA会長の舩木正之さんが実践報告を発表してくださいました。発表は、丹波山村や丹波中学校の的を射た、技巧を凝らしたパワーポイントで、また巧みな話術で、笑いやうなる声などがあり、拍手喝采をあげていました。本当にみごとでした。感謝です。

県教育委員会からは、ユーモアのある温かい発表で、PTA会長を中心に保護者全員で学校を盛り立てている。特に「できることは何でもやる」の言葉は重みがあり、学校への関心・協力は他には見られないものである。また、地域人材を生かした取組や自然を生かした活動は他に紹介したいものであった。丹波中学校は、生徒にとって誇りに思える学校であり、ふるさととなっている。などなどの講評がありました。

3年生保護者7名全員が参加するというPTAの団結力も示してくださいました。本当にありがとうございました。



来年度全校登山(大菩薩峠)下見

来年度の教育活動を考える時期になりました。11月6日(日)には全校登山の下見に大菩薩峠まで行き、安全指導対策の検討に入りました。



私の好きな一冊 田村修一監修 オシム語録 人を導く126の教え

私は、小学校から中学校まで約7年間サッカーをやってきた。今思えば、兄がやってきた道をなんとなくまねていただけの7年間であった。それほどサッカーに興味も無かったので、高校では新たな競技「器械体操」に挑戦するのにも、何のためらいも、サッカーへの未練も無かった。

しかし、時が経ち、自分の息子が地元のサッカースポーツ少年団に入ると、私自身もコーチとして再びサッカーに関わることとなった。自分がプレーする喜びとともに、教えることの難しさ、楽しさをそこから学んだ。サッカーを今まで以上に身近に感じるようになった。

Jリーグの試合もよく見るようになり、その中でも印象的だったのがオシム監督率いるジェフユナイテッド市原(現ジェフユナイテッド千葉)の躍進であった。当時は日本代表に名を連ねる選手などいない中堅クラスのチームが、快進撃を続ける。選手一人一人が躍動している。とにかくあちらこちらから選手が走り込んでくる。走らされているのではなく、走っている。こんな印象を強く持った。

彼はこのチームの意識を変え、ナビスコ杯を優勝にまで導き、その後日本代表の監督として指揮を執った。人の心を掴み、自ら考え行動させようとするオシム監督の言葉には、独特の比喻が有り、多くの示唆を与えてくれる。これはサッカーのみならず、人生にも通じるものである。

「2人のボクサーが拮抗している。一人は5発のパンチを出し、もう一人は4発しか打たない。そして最後の5発目が違いを作り出す。」「わかるか。すでに自分で限界を作ってしまったことを。」「相手より5歩余計に走れば、その5歩がすでに勝利の5歩だ。」「何かあったかを明確に記憶していて、それが悪いことであるならば、同じ状況で二度と繰り返さない。それが経験だ。」「…この本には126の教えが書かれている。オシムの言葉には、道に迷い行き先を見失った人々に勇気と希望を与える力がある。」

(文責:田草川耕教頭先生)